

## 地域医療等対策特別委員会会議録

開催年月日	平成30年 8月10日 (第22回)					
開催の場所	湖西市役所 委員会室					
開閉会時刻 並びに宣告	開 会	午前9時30分	委員長	高柳 達弥		
	閉 会	午前10時31分	委員長	高柳 達弥		
出席並びに 欠席議員  出席 8名 欠席 0名  〔凡例〕 ○は出席を示す ▲は欠席を示す ●は公務欠席を示す	氏名	出欠	氏名	出欠	氏名	出欠
	福永 桂子	○	牧野 考二	○		
	菅沼 淳	○	二橋 益良	○		
	土屋 和幸	○				
	高柳 達弥	○				
	佐原 佳美	○				
	竹内 祐子	○				
説明のため 出席した者の 職・氏名						
職務のため 出席した者の 職・氏名	係 長	村越 正代	書 記	三浦 梨紗		
会議に付した事件	別紙のとおり					
会議の経過	別紙のとおり					

# 地域医療等対策特別委員会会議録

平成30年8月10日（金）

湖西市役所 委員会室

湖西市議会



〔午前9時30分 開会〕

○佐原副委員長 皆様、おはようございます。本日は御多忙のところ、また連日暑い中、御参集いただきましてありがとうございます。

それでは、地域医療等対策特別委員会を委員長の開会でお願いいたします。

○高柳委員長 おはようございます。きょうは本当にお忙しい中、暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。

また、先日は、茨城県の阿見町と土浦市のほうへ、2日間にわたって視察をしていただきまして本当にありがとうございました。

それでは、ただいまから第22回地域医療等対策特別委員会を開会いたします。

それでは、議事に入りますが、発言は必ず挙手の上、指名に基づきマイクのスイッチを入れ御発言ください。

本日の予定は、次第のとおりでございます。

それでは、議事に入らせていただきますのでお願いいたします。

議事の1番ですが、行政視察のまとめということで、阿見町と土浦市の行政視察の取りまとめということでまとめをしたいということでお願いしたいと思っております。それで、8日までに視察の報告書を出していただくということで、本当に忙しい中、慌ただしくて申しわけなかったのですが、報告書を出していただきましてありがとうございます。その報告書につきまして、これをまとめたいと思うのですが、一応どういうふうにまとめるかということで、私のほうで、皆さん方のそれぞれの報告書を出していただいたのを自分なりに、お手元のとおり、皆さん方の報告書を集約したような形でまとめさせていただきました。そういうことでごらんいただければと思います。

阿見町と筑見区の自治会ということで両方視察したのですが、ちょっと簡単に皆さん方のをまとめたのを報告させていただきたいと思うのですが、一つ目に、医療機関及び福祉施設の状況ということで最初に説明がありまして、医療機関の状況、それから福祉施設の主要事業所の状況などの報告がありましたものですから、そこら辺を取りまとめました。

それから、それに関係した高齢化率とか、医師の状況とか、支援認定率とか、そういうのを最初にまとめさせていただいて、その後、在宅医療と介護連携事業の状況ということで説明がありましたもので、その事業につきましては、推進機関はこういうことですよとか、進捗状況はこんな状況ですよというようなことでまとめました。

それから、あと説明があったのが、認知症総合支援事業の状況についてありました。

それから、介護予防とか日常生活支援総合事業の状況についての説明。

めくっていただきますと、生活支援体制の整備事業、それとかあと人材の育成の状況、その後、筑見区へ行きまして、筑見区の自治会の福祉事業のほうの取り組みの状況のまとめをさせていただいて、福祉計画のガイドラインを区民みずから策定したということで、その内容はこういうことをやっていますよということで、支え合い、助け合いのあるまちから安心・安全に暮らせるまちまで四つにわたってこういうことについての説明があるのと、また、ふれあい館へ行って喫茶室でマスターの人たちにいろいろなお話を聞いたというようなことで、そんなぐあいでは阿見町と筑見区の間を流れるようにまとめさせていただきました。

あと土浦市のほうは、これも医療機関とか福祉施設の状況等をまとめさせていただいて、あと多職種連携と組織づくりの構築とか、あと在宅医療に関する地域課題の把握とか、それから多職種の連携ツールの作成ということとか、あと在宅ケア連携手帳を作成してこういうもんだよということで説明があったり、急変時の対応シートの作成とか、あと市民の啓発がこういうように啓発しているよということとか、ふれあいネットワークの関係の説明があったということで、そういう阿見町と土浦市の情報を流れるようにまとめてみたんですけど、皆さん方が出していただいたのが、それぞれ思いを持って、そのところについてこういうふうを感じるよということで、突

っ込んでそれぞれ説明と書いて報告していただいたです。

あと全協ですか、報告する時には余り細かい突っ込んだ内容の説明もあれですので、行ってきたことについて、こういう流れで、こういうことについて勉強してきましたというようなことぐらいで報告すればと思いついてちょっとまとめてみたんですけど、もしこれの中でつけ加えることがあれば、それと自分として、こういう今回の視察として、こういうのをまとめとして載せたいということがあればいただいて、また所感というか、後のほうはまた後にしますけど、まず今の前段のまとめということについて何かあれば、御意見いただきたいと思いますけど。

これは自分の独断と偏見でまとめたもので、それぞれ皆さん方、いろんなことで書いていただいたんですけど、そこら辺ちょっとどうかと思っております。

今、皆さん方も行ってきたことでわかってることなもので、ざっと行ってきた内容についてまとめたのを報告させていただいたもんですから、もしこの中でまたありましたら、後でもまた言っていただくということで、視察の中での所感として感じたことということで、報告書の中にそれが書いてございますけど、それも含めてこういう感じだったということをお知らせいただければと思うんですけど、所感をまとめてきょうのまとめにしたいと思しますので、そこらを出していただければと思います。それぞれの所感がありましたら、お願いしたいなと思います。

それで最後に、その所感を入れて報告書のまとめにしたいもんで、報告書にも一部書いてありますけど、委員会として、こういう参考になったとか、こういうことでよかったとか、そういう形をまとめたいなと思うんですけど。

○佐原副委員長 両方とも市で言われたのは、茨城県の指導がシルバーリハビリ……

○高柳委員長 そのあたりをちょっと。

○佐原副委員長 茨城県が、土浦のほうで言っていたのかな。阿見町ではしっかりととは言わなかったんですけど、あれはふれあいネットワークだったか。やはり社協のかかわりにしても、このシルバー体操にしても、茨城県がもう進めていたというのを言っていて、土浦ではこのふれあいネットワークという社協が中学校区の公民館にそれぞれ社協の職員と民生委員とかが常駐していて、火曜日から日曜日まで相談体制、昼間ですけど、それで月曜日は社協の本部でやりますよというのがパンフレットにありましたけど、そういう取り組みがもうすごく早くから地域包括ケアシステムとか国が呼び出す前からやっていたということで、両方の横並びのところなんで、同じように進められていたというのが、茨城県の指導力がすごいなというのを感じました。

だから、それぞれの市町が独自で勉強というのものもあるけど、県が指導してこういうスタイルもあるんだなというのを初めて見ました。

○高柳委員長 ありがとうございます。

感想とか所感があつたんですけど、今回、阿見町と土浦市の視察の目的というのが書いてありますけど、それとは別において、今までずっとこの特別委員会をやっていた中で、行政はどうだとか、医療機関はどうだとか、介護の施設はどうだとか、そういうような形のネットワークというか、その中を勉強してきて、市民の役割とか、市民がどのような働きをこのネットワークの中で持たないといかんかというのが一応課題だよということで、うちのほうの自治会も聞くということだったけど、それもやめて、それよりは先進地へ行ったほうがいいんじゃないかという中で、土浦市のほうはそれからいくとちょっと期待外れなところもあつたけど、阿見町のところについては、筑見区が自治会とか住民が福祉計画をみずからつくって、それで自分なりに地域包括ケアシステムの中の仕組みみたいなをつくって独自にやっているという形で、こういうのは独自でやってるけど、それは町の中でも一部のようなので、例えば湖西市に当てはめたら、そういうようなことが全市的にどういう形でね。生まれてくれば、医療と介護に対しての輪があれば埋まってくるんじゃないかと思ったんですけどね。そこらけど

うしていったらいいかわからないんですけど、ああいうことを取り入れていけばケアシステムが動いていくから生きていくのではないかなと、そんなように自分としては感じたんですけど。

そういうことをある面は期待してって、それなりの状況について成果的というのはあったんじゃないかなと、そのように自分としては思っております。

はいどうぞ、竹内委員。

**○竹内委員** 今、湖西市は社会福祉協議会の角度から見ると、行って思ったのは、行政だけの福祉はできないということ。社会福祉協議会と行政側の福祉サイドとが車の両輪となってやっていかないと、福祉というのは別に高齢者だけではなくて、子どもからお年寄り、それから障害を持った人、いろいろな方たち全てを含めての福祉なもんだから、そのところが両方の連携が必要だなというのを感じました。

二、三年ぐらい前だと思うんだけど、結局、地区社協をつくっていきましようということで進めているんだけど、なかなかそれがうまくいかない。それプラス、今、第二層のほうのことで進めていますけれども、それもなかなか、結局、地域の住民の人たち、市民の人たちに伝わってない。まだ、多分、スタートし始めていて、なかなかそのところがみんなにも福祉なんて空気みたいな存在なもんだから、なかなか伝わりにくくというか、今の生活でそんなに不自由もしてないもんだから、みんな余り関心もないと思うんだけど、やっぱりそのところをこれからの少子高齢化の社会を見据えていくと、筑見自治会みたいな仕組みをつくっていくのが一番、その地域で、住みなれた地域でずっと暮らしていけるよということになるんですよ。それを私たちが見てきたもんだから、大きな組織でやっていくのはなかなか進めづらいかもかもしれないけれども、社協さんもまめに地区担当の職員さんも決められていて、いきいきサロンなんかに、以前と思えば足を運ぶようになっているそうです。そういう役員さんとの話し合いも進めているそうなので、時間がかかるかもしれないけど、これをこつこつできるところから進めていくしかないのかなと思いました。

理想は、本当に筑見自治会みたいに、便利手帳というか、それぞれの私はこういうことが支援できるから、もし支援していただきたい人は連絡くださいよとかというような、そういうものが各地域にできてくると、ひとり暮らしの方も安心して暮らしていけるのかなというちょっと理想なところも見させてもらいました。

それから、あそこのみんなが集まれる居場所づくりというのはいいなと思いましたね。どこの地域でも、本当は1カ所あって、誰でも好きなように行けるといところがあるのが理想なのかなと思いましたけど、なかなかほかの地域でもそういう場所、建物がないから、ちょうどいい場所がないんですよ、あったとしても。だから、あそこは本当に成功事例のモデル地区だなと思う。見てきてよかったなと思います。

焦ってもしょうがないので、できるところから湖西もやっていけばいいのかなと思いました。

**○高柳委員長** 菅沼委員。

**○菅沼委員** 竹内委員が言ってることと同じようなことなんですけど、私は特に、筑見区の自治会の福祉活動というのが、自治会の方々がみずから考えてこういうことをやっているということです。特にコーヒーを呼ばれたじゃないですか。あそこなんかも、新所なんかもひだまりサークルというのがあるんですけど、もう毎日やっているということで、対象者みずからが運営しているんですよ。新所なんかはスタッフがおって、その人たちがみんなの面倒を見るというようなことであって、高齢者が見ずからこれからの社会、こういうことを真剣に考えて、その活動をしているということが印象に残りました。それだけでいいですか。

**○高柳委員長** 筑見区という説明もあったんですけど、そういう団地であって、その中で高齢化率が40%も上がってる。特殊事情でああやらざるを得ないような状況だと思うんで、その中でできてきたというような特殊事情があるじゃないかなということを思いますけど、そういう方向性が一番全体的にいけばいいかなと思うけど、見ても、筑見区が町全体に行き渡るような形というのは何か見られなくて、そこだけ特別にやっとなるよというよな、町としてもそんな感じがしとったよね、そうだよな。

〔不規則発言あり〕

○高柳委員長 二橋委員。

○二橋委員 どうしても、今現在ですぐに考えちゃうもんで、モデル地区があるといいねとか、そう何かなっちゃうね。本来、やっぱり人間社会というのは歴史があって、その歴史の中でいろんなことが語られてきて、いいとこどりをしてくりゃいいけども、高度成長からずっと何となく管理社会と経済社会に走っちゃったという一つの原因があるけども、今、新所の話が出たので、例えば新所という部落の中でそういうことが行われていたんだよ、もともとは。

ただ、医療とかそういう特化したところになるとちょっと違うけども、システムとしては、その地域の部落でそういうふうになっていたと。ただ、行政の力を借りにゃいかんのは、例えば道路をつくったり、あるいは大きな仕事はやっぱり行政に頼んで、自分たちの身の回りのことは自分たちで、要するに相乗効果が生まれてきてただよね。ただ元来あったものだと。

ただ、今思い起こすに、たまたまこの筑見区が高度成長で、膨らんだけども、要するに一番の高齢化の地域になっちゃったと。これは極端な地域だよ。そこで自分たちがやっぱり原点に戻って何をやらにゃいかんかというところからこの事業が始まってきとると思うんだよ。

今、湖西市でも地区社協とみんなは言うけども、本来は部落としてそれは存在してたと。そこを原点にものを考えてもらわんと、新たなことじゃないということは事実だと思うんだよ。そういうことをちゃんと原点に持って帰って、しっかり精査した中で、じゃあ湖西市ではどうするかという、要するに過去あった部落のシステムをどう構築していくかということにもう一回戻らにゃいかんと思う。そこで初めて、こういう福祉事業とか包括ケアシステム、それは大きな病院から全部一体になったこういう組織になるかということだと思っておりますので、ぜひそこら辺の原点は思い浮かべていただいて、うちの委員会としてしっかり指摘をしていかにゃいかんじゃないかなと思います。

○高柳委員長 今の二橋委員のは、ちょっと進んで、この特別委員会の最後の提言の内容にも触れるような内容の意見だったと思います。そこらもまたこの後、そういうのをどうしていくかというのをまた話し合っていかにゃいかんと思いますけども、そういう含みも持った意見だったと思います。

○二橋委員 報告というのは、これは本当にすぐくまくまとめていただいて、また自分も気がつかんところがいっぱいあったと思うんだけど、まとめられてるもんで、本来ここで最終的にどう締めるかという所感とか、所見とか、そういうところにぜひ集約をしていけば大体まとまってくるんじゃないかと思っております。そこら辺を重点にお願いしたいと思っております。

○高柳委員長 皆さんのその所感のところをまとめたいもんで、御意見が何かありましたらお願いします。

○牧野委員 阿見町の話も大分出ましたけど、阿見町でも最初に自治会をつくったときからのことがあるもんで、その継続じゃんね、今やってる人らは。それだもんで今やれるだよ、あれが。次の段階になったときに、僕がちょっとお聞きしたのが、そのときに副会長はもう決まってるよ、なんて言ってたよ、何年かやっているよなところが。ほかの人はどうするよと。このまま継続してたら立派だと思うけど、こういうのって継続するのはすごい難しいだよ。スタートするときはえいやでやりやれるんですよ。ところが、その継続というのは物すごく難しいと思う。僕はその辺を聞いたかったけど、どうもその辺の答えは出てこなかったですけどね、それは一つ感じました。

それと、阿見町が医大があつたり何かで、非常に恵まれてるというところはうらやましく感じましたね。大学病院があるということ、これはうらやましいなと思いました。

それから、土浦で私が思ったのは、在宅ケア連携手帳、これいいなと思いましたね。小さいのにもまとめてあって、大きいのにもまとめてあるということは、私はこれをある程度見習うべきじゃないかなというような気が

しました。以上です。

○高柳委員長 土屋委員、ありますか。

○土屋委員 私も筑見区のイメージがすごい強くて、報告書も筑見区のことを報告、ほとんど。ほかの地区は、ほかの方も書いてくれるかなと思って、筑見区について集中的に報告させていただいたんですけども、ああいうのが誰が見てもいいなと思うんですよ。いわゆる自分たちでやって、そんなに行政が手伝ってるわけじゃないね、実際始まっちゃうと。行政がどこまでかかわっていくかという問題はともかくとして、地域として自分たちがやらなきゃいけないという意識をどうすれば持つのかなというのと、湖西市とかいろんなところがあるけども、一番気がついたのは、来る人はみんな穏やかな人が多い。うちのほうでやったら何かけんかになりそうなどが、何でああいう会話になっちゃう。

僕らとのこのどこの地区でもそうだと思うけど、年寄りの人が集まると、結構けんかになることが多いじゃんね。そういうのがない地区というのは、非常にうらやましいなと思ったんですけども、そういった意味では、リーダーが本当にしっかりしてないと、リーダーの養成というものは物すごい気配りをしていかないといけないんですけども、あの仕組みが物すごくいいというのはわかりましたので、それで毎日やってるというのは、新所原でも南上の原でもいきいきサロンがあって、月に1回って、月に1回だと何でもそうだけど、やらないよりはいいけど、毎日ひとり暮らしの人とか高齢者だけとか、実際に何もやる人がいない人がいるんですよ。そういう人が行くところをつくってあげるといえるのは、じゃあ誰がやるかといったときに、いわゆる行政にしたって、社協にしたって、毎日行ってやるわけにはいかない。

民生委員を毎日連れ出すわけにはいかないということは、やはり高齢者の中でもリーダーをとにかくつくって、そのリーダーのもとに集まる人たちが何とかこなしていかなければいけないのかなというふうに思ったんですけども、そのリーダーをつくるのは簡単ではないのもわかるんですけども、結構話をすると、やってもいいよみたいな人もいるので、そういうあとは場所の問題だと思うんですけども、場所については、市なり社協が空き家とかどこかを工夫してあげるとか、紹介してあげるような部分が要るのかなと思ったんですけども、ああいうやり方だったら幾らできて、行政も社協もそんなに負担にならないと思うので、だけど聞いたら、どこかの地区から来た人がいたよね。ああいうどこかから来たというと、その地域にはほとんどないと考えると、幾ら阿見町がどうだこうだと言っても、なかなか難しい仕組みであることは理解できるんですけども、それを何とかしていかないと、このままでいいのかなという感じはいたしました。以上です。

○高柳委員長 今の話の中でも、阿見町の話ですけど、阿見町の説明の中でも人材育成というのに力を入れているような感じがしたもんですから、そういうことは特にうちのほうでも必要でないかなと、そういうことも力を入れとるもんで、ある程度のそういう実績もあがっているんじゃないかなと感じました。

それから今、牧野委員の話がありましたけど、あそこの自治会長さん、区長というか自治会長とか、両方名前が名刺にあったんですけど、あの人すごい力を持って、ずっと何年もやって、もうまとめちゃってるんですけど、あの人抜けた場合に、あと組織的にどういうようになっていくか、もうじり貧になるのか、さらに進むかと、そこら辺が心配の面というか、そこらが感じたところです。

○牧野委員 あれだけの組織でやってるといえることは、僕はうらやましいなという面があるんですよ。ところが、それは何でかという、僕が言ったのは、うちのほうでもいきいきサロンをやってますよね。いきいきサロンはやっていて、それやれと言ったときにはぱっと人が集まってみんな手伝ってくれた。しかし、さあって言ったときにやった人たちが、だんだんだんだんいきいきサロンのお客さんになってくるんですよ。後継ぎがないんですよ。これは事実なんですよ。

今、筑見でも、多分今はそうやってがっとうやってるでいいけど、その次の人らがどういうふうに動いてくるのかな、あのまま行けば立派なもんだと思うけど、いろいろな奉仕って車で乗せてやったりいろいろなことをやっ



てくれるという組織があるじゃないですか。ああいう組織を考えたときでも、後で続いてくれば良いけど、おあって言って、立ち上げたときはできるんですよ。その次ですよ、一番問題は。その辺が僕はどうかなのというのが。

別に筑見を批判しているわけじゃないんですよ。自分とこへ照らし合わせてみると、あとつなぐのが難しいじゃないかなというのを一番感じましたね。

○高柳委員長 人材の継続性というのがうまくいくのかどうかというのが、すごく感じたということですね。はい、わかりました。竹内委員。

○竹内委員 人材育成というか、そういうふうにいるいろいろ後継者を育成していくっていうのって、やっぱりどこの地域でも課題だし、自分がいろんな団体に所属していても、自分の団体を継続するための次の人選びというのも本当にみんな頭を悩ませるところじゃないですか。だけど、それって結局、もう人と人とのコミュニケーションで、自分たちの活動を理解してもらって、自分の仲間をふやしていくしかないもんだから、本当に1人の人を誘うだけでもすごい大変なことなんだけど、こういうのってこつこつやるしかないんですよ。特効薬ってないもんだから、やっぱりそこで輪をつくっていくしかないんで、私が入出にいるから、じゃあ鷺津の人に手伝いに来てくださいと言っても、なかなか来れるもんじゃない。例えば、入出出身で鷺津に住んでいる人に、こういうことがあるから手伝いに来てくれと言われても、なかなかそういうふうには来れない。やっぱり地元のことは地元の人で助け合うしかないもんだから、そこはやっぱりみんな、今やってるやる気のある人たちで、口コミで頑張るしかないのかなと、そう思ってます。

○高柳委員長 自分で感じたところですけど、阿見町と土浦市ですけど、最初に阿見町へ行ったときにも、湖西市のホームページを見たらすごい立派になっててつくってあるよ。ここにまとめたのも、大体は国のところこういうことをしなさいというのを事業名も挙げていて、いつまでにやりなさいということなもんですから、ずっと同じようなことになっていると思うんですけど、そういう中で湖西市もそのようにやっていると思えますけど、両方の町と市へ行った中で、個々に突っ込んでいろんなことを進めているよね。細かい手帳をつくったり何とかしているいろんなことをやってるじゃんね。そういうことが、国で言ってるけど、国のことだけでなく、自分らの問題として深くいろんなことを追求して、いろんな事業を進めているなと感じたんです。

そこで、湖西市の場合、そこらが説明不足なのか、やってるけども見えないのかわかりませんが、湖西市と比べてすごい個々に突き詰めて、いろんな事業をどんどん進めているなというようなことを感じたんですけど、そこら辺をどんなふう感じたか、皆さん。

○佐原副委員長 福祉も同じようなこと言ってるんだったら同じことであれなだけで、でも、どこも行政の福祉事務所の中とか、福祉課の中の役割の編成がえ、あれをやっている。土浦もそういうように書いてあったよね。そういう地域包括を担当するような部署をちゃんとつくっている。土浦も4人から7人の名前もそういうネーミングにしてつくってるじゃんね。

だから、その意気込みが違うというか、同じことをやってるんだけど、こう言っちゃ何だけど、片づけ仕事みたいに何年までにできたできた。今まで既存のものを引っ張ってきて、これはこの事業に当たるってやれば、机上の論理はできてるようになるよね。インターネット上にうまく張りついているのを見ればね。けども、そういう血の通った市民が実感するようなものになってないんじゃないかなと思ったのが1点。

それと、私も牧野委員の言った継承が難しいというところで、所感で書いたんですけど、今、介護予防の部分だけじゃんね、みんなが集まってきて、生き生きと暮らせるようにとか、84歳、87歳でもマスターになって人のお世話をすると、35人だかのうち10人はひとり暮らしだと言ってたけど、そうなんだけど、その人たちが本当に今度は介護される側になったときの、そこまでがまだできてないというか、それまで地区で完結しろというのは無理な話かもしれないけど、国が言ってる地域包括ケアシステムは、人のうちへ行って、ホームヘルプでこんに

ちはって行って、おトイレの介助をしたりとか、トイレ介助は専門家か、身体介護は。要は洗濯してやるとか、掃除してやるとか、ごみ出しだとかそういう部分、もっと動けなくなったことも地域包括ケアシステムの中にあるけど、あの人たちは予防の部分で、もちろん予防すれば動けない時間というのは短くなるから、健康年齢は長くなるからいいんだろうなと思ったけど、本当にその人たちが悪くなっていったときには、今ある既存のサービスで賄っていくしかないだろうな。その地域の役割はどんなのかなというのを思いました。

○竹内委員 全然話は違うんだけど、この「備えて安心！急変時の対応シート」というの、これだけでもう訪問看護師への連絡先とかかかりつけ医の主治医へ連絡とかって、このように見える化してるんだよね。そうすると、かかりつけ医って何ってなるじゃん、もしかかりつけ医を持ってなかった方は。そうすると、またそれを聞いて、そういうお医者さんを持ったほうがいいんだねと言うと、みんな持つようになってくると思うのね。

だから、やはりかかりつけ医を持ちましょうとか、いろいろ私たちもPRというか、啓発をするけれども、なかなかそれが浸透していかないという部分があるじゃないですか。だから、ここのこのシートというのは、すごく見える化になってよかったなって私は思うので、湖西市もこういうのをまねしたほうがいいんじゃないのかなって。

○牧野委員 土浦でしょう。

○竹内委員 ああそうそう、土浦でもらったのを。

○佐原副委員長 急変時の何だって。

○竹内委員 対応シートという、これね、訪問看護師への連絡とか、やっぱり訪問看護師って何よってわからにゃ聞きゃいいんだもんね。そうすると、そういう仕組みがあるだねというのもわかるし。

○菅沼委員 緊急時のときは誰が連絡するの、これ。

〔不規則発言あり〕

○高柳委員長 佐原委員。

○佐原副委員長 かつて湖西でも、何か一般質問を見てたら、緊急時のそういう連絡、一時はやったんだよね、冷蔵庫の中に入れましょうとか、冷蔵庫に張りましょうという、筒まで用意して、何か福祉の部屋に昔あった。私が一番最初、福祉の委員になったときにね。その内容というのは似たようなものを書いてあるのかね。ただ、それが活用されてないのかどうか。

○竹内委員 だから、かかりつけ医が書いてあったかどうかの確認というのがね。

○佐原副委員長 そうだね。

○二橋委員 あれどっかへ視察に行ったときにこういうカードがあっただけでも、あれはその人の要するに情報だけだったということ。その人の情報。例えば、どこへ連絡するとか、その人が悪くなったときに連絡するとか、あるいはその人の要するに健康状態のものとか、そういう個人情報が入る。

○高柳委員長 それと関連して、僕はそのシートを見て感じたことは、医療と介護を全部載ってるら。ということは、連携して全部調整されてそういうのができてると思うんですよ。だもんで、そういうことができてなければ、このシートはつukれないじゃんね、勝手にシートをつくっても。そういうことが全部連携して、全部調整できるともんで、そのシートができ上がると。だもんで、その点でシステムがもうでき上がってるよということを感じたんですけどね、自分としては。そういうことできてるから、こういうシートができるんだよというふう感じたんですよ。竹内委員。

○竹内委員 だから思うんだけど、さっき副委員長が言われたみたいに、本当に地域包括ケアというか、地域福祉の中に担当の専門の部署をつくらにゃいかんだよね、公共施設マネジメント室みたいなのを。そうすれば、もっとすごく対応がスピーディに、横との対応とかいろんなものが全てもうまくいくんじゃないのかなとかって。ばらばらになってると、どうなんだろうね。形がつくられても、やっぱりちゃんと流れていかないというか。組織

づくりかな、やっぱりそうなるよ。

○高柳委員長 それと今のシートの関係ですけど、先ほど牧野委員の言った手帳、何だっけ。

○竹内委員 在宅の連携手帳。

○高柳委員長 在宅連携手帳、これを緊急対応シートと同じことで、そういう関係が全部、医療と介護の関係をそれぞれの診療所もそういうのも全部調整できてなければ、こういうものがないじゃんね。なんで、そういうことで、これをすぐにつくっていいで作りんと言っても、そういう組織ができてなければこんなのはつくれないということだね。なんで、そういうように作りんと言っても、市でつくったほうがいいと言っても、市の中でそういうまとまりができてなければ、こんなシートはできないよ。つくっても何も有効的な生きる手帳にならないよ。

○佐原副委員長 できてます。湖西市もできてます。これは、だから介護保険制度を使っていて、訪問看護サービスを受けてるとか、そうすればもう全部書けることで、だから受けてない人は書きようがないもので、訪問看護とかいろいろなものを。だから、できてはいるよ。

○高柳委員長 例えば、介護の24時間そういう体制ができていなければ、こういうのをやっても。

○佐原副委員長 24時間やってるよ、訪問看護。

○高柳委員長 そういう体制、十分できるかということだよ。

○佐原副委員長 十分かどうかはわからないけど、それこそ髪がぬれたまま訪問看護師さんが来てくれて恐縮したとかそういう話も聞くし、私も夜、おぼとへ災害ボランティアの集まりに来たら、訪問看護師さんが出動していくところだった。駐車場がなくて私がうろろうしてたら、私出ますからここへ入ってくださいなんて言ってくれて、24時間対応、ここの中はやってるなと思いました。

だから、湖西市の現状を私たちが知らない部分もあって、しゃべっていてもどうかなというのも思いました。

○二橋委員 今の訪問看護は、要するに訪問看護を請け負ってるところがやるだけの話で、それ以外の緊急の場合にはやっぱり救急車だよ。ただ訪問看護というのは、システムができてるんだよ。自分の担当する人がちゃんとあって、そこから夜でも電話が来ると出ていかなきゃならん。

○菅沼委員 ですから緊急の場合、こういうシートがあればあったほうがいいに決まってますけど、緊急の場合、本人は連絡できないといったときに、家族がいないと、そこに、昼間でも。夜は多分いると思いますから大丈夫だと思うんですけど。そういうときどうするんですか。

○竹内委員 だから緊急通報システムというのがあるじゃん。

○二橋委員 そういう意識がなくなっちゃったらどうするの。

○佐原副委員長 ペンダント式というのがあるんだよ。

緊急通報システムは壁かけ式もあって、隣のうちに電話が行くとかってのもあるけど、ペンダント式で、今はみんなアルソックだとかあいうところへつながって、そこから消防に行つてというシステムになってるけど、自分でペンダントを押せない、もう本当に一気に意識がなくなっちゃったら、そういう場合はもうあり得るねと思います。

○竹内委員 それはしょうがない。

○佐原副委員長 そういう場合はね。

○二橋委員 きょう、今議論しとるのはさ、研修結果報告書をつくるために話しとるから、なもんで、まとめていかんと。議論ばかりし合つとると。

○高柳委員長 今、大体そこらが出そろったから、この中で一応まとめていくという形の中で。

○佐原副委員長 あと蛇足ですけど、さっきのピンクの連携のノート、あれいいねいいねって話なんだけど、湖西市も介護保険をスタートするときに、ぼかぼか手帳というのをつくったんです。すごい立派なバインダー式で、

結局は、在庫があるうちはみんなに出してただけで、もう湖西市でそれをつくる財政力がないということで、私たち現場はそれぞれが大学ノート、普通の帳面をもう使ったんです。

だけど、例えば私まんさくにいて、みんな高齢者は自分で文房具屋に行けないんですね、スーパーとか、すると、まんさくで売ってくれと言うから、1冊50円で売ったの。そうすると、結局、今まで市のはそれみたいに共有で、そのうちにまんさくでデイケアやりました、うちへ帰ったらホームヘルパーが来ました、御飯つくって帰りました、そう記録すると、まんさくで提供したノートもそれでどんどん終わっていったりして、何かあったという間にまんさくでばっかりノートを買っていてというような現象が起きたりして、それぞれの事業所ごとに今度はノートを置くようにしたんです。だから、そのノートを見る人が、結局は何冊も今の湖西市はあっちゃって、ケアマネジャーさんは何冊も見て、1カ月の次のプランを立てるだろうけど、事業所同士の連携ができなくなっているのが現実なんで、だから市が、どこまで土浦市がこれを発行し続けられる財政力があるのかなという思いもしました。

湖西市は、岐阜市を見習ってつくったんです、すごい立派なのを。中身の紙がなくなれば、まんさくは全部コピーして穴をいっぱいあけて、バインダーに合うように、そうやって入れてあげてたんです。すごい持ち出しでしたが、そんな経過があるので、湖西市にもなかったわけじゃない。

○高柳委員長 ありがとうございます。

時間になってしまいますので、この所感はいっぱいありますけど、いっぱいまとめてもしょうがないもので、この中で四つぐらいでまとめて所感としてつくりたいと思いますので、そこら辺ちょっと。重複してるものもあるもので、四つぐらいにしたいと思うんですけどどんな。どれとどれというのをちょっと出してもらって。

言ってください。佐原委員。

○佐原副委員長 この行政のみの福祉でなく、社協の力との両輪で運営するべきだというのはやっぱり入れたほうがいいかなと思います。

○高柳委員長 それは、市と町の両方で視察の結果でということ。

○佐原副委員長 ただ、阿見町では社協の声が見えなかった、姿が見えなかった。

○高柳委員長 土浦市ということで、それは。

○土屋委員 行政の担当課の再編を、それをお願いします。

○高柳委員長 それも土浦ね。土浦は二つなもので、阿見町のほうも。今は土浦だけで、阿見町のを。

○佐原副委員長 やはり茨城県が主導で、どの市町にも進めていたのがという、そういう歴史があるんで、介護予防の。それが大きく影響してる素地があったと思いました、これは両市にかかわる。

○高柳委員長 それは両市町。

○竹内委員 行政が深くかかわらず、筑見区の支え合いができるというところ。そこへちょっと何か足せばいいんだよね。具体例を、例えばふれあい…。

○佐原副委員長 運転送迎システムとか。

○竹内委員 そういふのとかがいろいろ、ちょっと例を。

○佐原副委員長 行政がかかるとグレーになるってね。

○竹内委員 そうそう。そのあれを入れていただいて。細かいのを。

○高柳委員長 ふれあいと乗り合い。

○竹内委員 支え合い、助け合いのあるまちのふれあい・乗り合い、タウンページ方式の支え合い。

○高柳委員長 これは阿見町ね。

○佐原副委員長 阿見町というか筑見区。

○高柳委員長 阿見町・筑見区にする。

〔不規則発言あり〕

○高柳委員長 このくらいにしとくか。いいかね、それじゃあそのくらいで。あとはちょっとまた。

それでは時間もたっておりますので、行政視察のまとめということはこれで終わりといたしまして、(2)の今後の計画でございますが、この計画表が手元にあると思いますが、8月以降、これで進めていきたいと思うんですが、最終的には提言書をまとめなきゃなんですが、そういうことで、その中で提言内容、最後にこういう形で提言しようという落としどころというか、そこら辺をまた皆さん方に出していただいて、それである程度、全体の形をつくっていききたいものですから、そこら辺またこれ以降、勉強会をまたしていききたいと思っておりますけども、そんなところですから、皆さん方にまたこれからどういう形で締めていくかという、締めとしてこういう形で締めようというようなことを考えていただいて、そういうことで、この活動計画で行きたいなと思っておりますのでお願いいたします。

(3)のその他のことでありましたら。なければ、これで特別委員会を終わりたいと思っております。

まず、この委員会はこれで閉めさせていただきたいと思っております。お願いいたします。

○佐原副委員長 いいまとめができたかと思っております。

では、これで地域医療等対策特別委員会を終わります。ありがとうございました。

〔午前10時31分 閉会〕

湖西市議会委員会条例第28条第1項の規定により署名する。

委員長 高柳達弥